

日本地質学会第 123 年学術大会（2016 東京・桜上水大会）講演プログラム（口頭）

■ 9 月 12 日（月）午前

会場	第 1 会場（3305 教室）
	国際シンポジウム S2. 後期新生代における琉球列島の地質および古地理発達史 座長：1-3 荒井晃作, 4-5 井龍康文, 6-7 太田英利
8 : 45	8 : 45 S2-O-1 Geological and biogeographical evolution of the Ryukyu Islands. Yasufumi IRYU 9 : 10 S2-O-2 (招待) Tectonics of the Ryukyu subduction zone. Shu-Kun HSU 9 : 35 S2-O-3 (招待) Seismic stratigraphy and structural characteristics of the northern Okinawa Trough. Sunwoo DON 10 : 00 S2-O-4 Geological evolution around the Ryukyu Islands: based on the offshore seismic reflection data. Kohsaku ARAI 10 : 15 S2-O-5 (招待) Terrestrial vertebrates as sources of information on the Ryukyu palaeogeography. Hidetoshi OTA 10 : 40 S2-O-6 (招待) What do recent zoogeographical studies tell us about paleogeography of the Ryukyus? Mamoru TODA, Takuma KAITO 11 : 05 S2-O-7 (招待) Plant geography in the Ryukyus: geohistorical and ecological perspectives. Koh NAKAMURA 11 : 30 Disucssion

第 2 会場（3307 教室）
R12. 岩石・鉱物の変形と反応
座長：1-4 上田匡将, 5-9 澤井みち代
9 : 00 R12-O-1 (招待) ★ プレートの沈み込みと地震：地震波で診る流体の影. 中島淳一 9 : 30 R12-O-2 鉱物の溶解析出から見積もられる沈み込み帯地震発生領域での鉱物脈形成に必要な流体量とその形成速度：延岡衝上断層の例. 大坪 誠・最首花恵・岡本 敦・宮川歩夢 9 : 45 R12-O-3 石英粒間水における溶存シリカの拡散特性：圧力溶解変形への応用. 西山直毅・佐久間 博 10 : 00 R12-O-4 単斜輝石ナノ多結晶焼結体の高温変形実験. 石川正弘・坪川祐美子 10 : 15 (休憩) 10 : 30 R12-O-5 三波川變成帯石英片岩の石英粒径分布測定と改訂された動的再結晶粒径モデルにもとづく粒径差応力計の適用. 上田匡将・清水以知子 10 : 45 R12-O-6 SEM-EBSDを用いたantigorite結晶方位測定時のmis-indexingの存在とCPOパターンへの影響. 永治方敬・ウォリス サイモン・瀬戸雄介・三宅 亮・曾田祐介・上原誠一郎・松本 恵 11 : 00 R12-O-7 静岡県佐久間町中央構造線沿いに分布する断層岩の延性脆性組織と結晶方位解析. 遠藤弘人・道林克禎・Mainprice David 11 : 15 R12-O-8 圧密方程式と多孔質媒体方程式：フィンスラー空間とリッチ・フロー. 長濱裕幸 11 : 30 R12-O-9 非整数空間における岩石変形の分数階微分に基づく考察. 山崎和仁

第 3 会場（3308 教室）
T9. 付加体地質中に残る遠洋性堆積岩の研究：進展と展望
座長：1-4 尾上哲治, 5-8 高橋聡, 9-11 佐藤峰南
8 : 45 T9-O-1 (招待) 付加体遠洋深海チャート中の鉄化学種に記録された古海洋酸化還元環境. 佐藤友彦 9 : 00 T9-O-2 ペルム紀末の遠洋域深海堆積岩に記録された還元鉄とモリブデン化学種の変化. 高橋 聡・中田亮一・渡辺勇輔・高橋嘉夫 9 : 15 T9-O-3 遠洋域深海堆積岩に記録された三疊紀古世から中世初期にかけての遠洋域への碎屑物供給様式の変化. 武藤 俊・高橋 聡・山北 聡・池田昌之・尾上哲治・山口飛鳥 9 : 30 T9-O-4 美濃帯三疊系層状チャートに記録された天文学的周期に伴う生物地球化学的動態. 曾田勝仁・尾上哲治 9 : 45 T9-O-5 タイ国半島部および北西部に分布する三疊系珪質堆積物の岩相層序. 鎌田祥仁・山本力哉・上野勝美・宮東照・原 英俊・久田健一郎・Thasinee Charoentitirat・Punya Charusiri・Apsorn Sardsud 10 : 00 T9-O-6 タイ国半島部および北西部に分布する三疊系珪質堆積物の無機化学組成の特徴. 山本力哉・鎌田祥仁・上野勝美・宮東照・原 英俊・久田健一郎・ThasineeCharoentitirat・Punya Charusiri・Apsorn Sardsud 10 : 15 T9-O-7 三疊紀後期ノーリアンの遠洋性堆積岩を用いたオスミウム同位体変動からみる地球外物質付加の検討. 佐藤峰南・野崎達生・石川 晃・尾上哲治・木村純一・常 青・鈴木勝彦 10 : 30 T9-O-8 大分県東部佐伯地域の秩父帯に産する層状マンガン鉱床の層序と放散虫化石年代. 富松由希・尾上哲治 10 : 45 T9-O-9 美濃帯の三疊系〜ジュラ系層状チャートの堆積過程. 尾上哲治・曾田勝仁・池原 実 11 : 00 T9-O-10 美濃帯上部三疊系〜ジュラ系層状チャートを用いた古地磁気・化石統合層序の確立. 山下大輔・宇野康司・尾上哲治 11 : 15 T9-O-11 (招待) 日本海溝の陸上アナログとしてのジュラ紀付加体研究. 山口飛鳥

※講演番号は、シンポジウム (S)、トピックセッション (T)、レギュラーセッション (R) のそれぞれに、ポスター (P) / 口頭 (O) の記号と各セッション内での通し番号を付与しています。

※講演要旨とプログラムとで発表題目や著者氏名が異なっている場合、講演要旨を正しいものとします。

※太字氏名：代表発表者。★印：ハイライト（本誌 p. (12) を参照）。（招待）：招待講演。（エントリー）：優秀ポスター賞エントリー講演

日本地質学会第 123 年学術大会（2016 東京・桜上水大会）講演プログラム（口頭）

■ 9 月 12 日（月）午前

会場	第 4 会場（3303 教室）	第 5 会場（3405 教室）	第 6 会場（3407 教室）
	R9. 炭酸塩岩の起源と地球環境	T8. 極々表層堆積学：「堆積物」への記録プロセスの理解	R11. 石油・石炭地質学と有機地球化学
	座長：1-4 高島千鶴，5-7 加藤大和	座長：1-3 川村喜一郎，4-6 新井和乃，7-8 小栗一将，9-10 清家弘治	座長：1-3 金子信行，4-6 松井良一，7-8 江森良太郎
8：45	8：45 R9-O-1（招待）★ 炭酸塩続成作用と炭酸塩堆積物に基づく古環境解析。 松田博貴 9：15 R9-O-2 黒色層を含む鍾乳石による古環境復元。 山田 努 9：30 R9-O-3 炭酸凝集同位体温度計の実態と陸域炭酸塩岩への適用。加藤大和・狩野彰宏・森 大器・柳川勝紀 9：45 R9-O-4 沖縄トラフの熱水域堆積物中に含まれるドロマイトの生成条件。宮原玲奈・狩野彰宏・加藤大和・石橋純一郎・石橋純一郎 CK16-01航海乗船研究者 10：00 R9-O-5★ 沖縄県久米島・新第三系玄武岩中の石灰質裂か充填堆積物の供給源。 牧野帆乃香・佐野弘好 10：15 R9-O-6 Litho- and microbiostratigraphy of Triassic carbonates in the Buruanga Peninsula, Panay Island, Philippines. 石田啓祐・鈴木茂之・Dimalanta Carla B.・Yumul Graciano P. Jr.・Zamoras Lawrence R.・Faure Michel・Hirsch Francis・Kiliç Murat Ali・Placencia Pablo 10：30 R9-O-7 モンゴル西部ゴビ・アルタイ県における下部カンブリア系微生物岩の構成と組織の特性。 江崎洋一・足立奈津子・刈建波・園田ひとみ・渡部真人・杉本雄祐・ALTANSHAGAI Gundsambuu・ENKHBAATAR Batkhuyag・DORJNAMJAA Dorj	8：45 T8-O-1 Sr-Nd同位体比から探る日本海溝地震性タービダイトの供給・輸送プロセス。 新井和乃・齋藤 有・金松敏也・池原 研 9：00 T8-O-2 堆積イベント記録装置としての海底設置型観測機器。 三浦亮・新井和乃・金松敏也・笠谷貴史・日野亮太・海宝由佳 9：15 T8-O-3（招待） 現世表層堆積物を支配する4つの要因。 野田 篤 9：30 T8-O-4 深海底での極々表層での微細堆積学。 川村喜一郎・藏永 萌 9：45 T8-O-5（招待） 海底堆積物表層における堆積残留磁化の獲得メカニズム。 菅沼悠介 10：15 T8-O-6 走査型SQUID磁気顕微鏡による堆積残留磁化分析。 小田啓邦・河合 淳・Xuan Chuang 10：30（休憩） 10：45 T8-O-7 生物攪拌は地質記録をどれくらい破壊しているか？ 清家弘治 11：00 T8-O-8 愛媛県西条市加茂川河口干潟の堆積相とその動態。 秋山紘胤・奈良正和 11：15 T8-O-9 長期時系列現場観察カメラの開発と堆積現象の観察。 小栗一将・手塚尚明・山北剛久・渡邊修一・藤倉克則 11：30 T8-O-10 Vein structure revisited：産状と実験に基づく海底の極々表層における振動による成因説。 小川勇二郎	9：15 R11-O-1 塩酸および有機酸によるスメクタイトの溶解度と外部膨潤。 大久保進・高橋蓉子 9：30 R11-O-2 石英質砂岩の埋没続成作用とその貯留岩性状に及ぼす影響－白亜系深海成ガス貯留砂岩での事例。 松井良一・市澤惠爾・松井裕之 9：45 R11-O-3 我が国炭田で炭質に記録された地質イベント。 鈴木祐一郎 10：00 R11-O-4 始新統石狩層群の広域的なビトリナイト反射率が示唆する局所的熱源。 堀 耀太・古浦正太郎・鈴木徳行 10：15 R11-O-5（招待）★ 水溶性天然ガスとヨウ素鉱床について。 三田 勲 10：45 R11-O-6 微生物起源ガスは資源として重要か？ 金子信行 11：00 R11-O-7（招待）★ パプアニューギニアにおける石油天然ガスの探鉱開発－地質学が果たした役割－。 小鷹 長 11：30 R11-O-8 石油・天然ガス探査データに基づく国内海域堆積盆地発達史研究の重要性－常磐沖、北陸山陰沖堆積盆地を例に－。 荒戸裕之
	R22. 地球史		
	座長：1-3 静谷あてな		
	11：00 R22-O-1★ 北海道における中新世の海洋基礎生産変動の復元：北太平洋のオパールシフトの記録。 沢田 健・風呂田郷史 11：15 R22-O-2★ 南島島周辺の遠洋性赤色粘土より測定した白亜紀最後期からの風成塵粒子サイズ変動。 白井洋一・大田隼一郎・飯島耕一・加藤泰浩 11：30 R22-O-3 Lord Howe Rise掘削コア（DSDP Site 208）の白亜系-旧成系（古第三系）境界層の地球化学的特徴。 黒田潤一郎・斎藤実篤・白井洋一・安藤卓人・萩野恭子・熊 衍听・山田泰広		

※講演番号は、シンポジウム (S)、トピックセッション (T)、レギュラーセッション (R) のそれぞれに、ポスター (P) / 口頭 (O) の記号と各セッション内での通し番号を付与しています。
※講演要旨とプログラムとで発表題目や著者氏名が異なっている場合、講演要旨を正しいものとします。
※太字氏名：代表発表者。 ★印：ハイライト（本誌 p. (12) を参照）。 （招待）：招待講演。（エントリー）：優秀ポスター賞エントリー講演

日本地質学会第 123 年学術大会（2016 東京・桜上水大会）講演プログラム（口頭）

■ 9 月 12 日（月）午前

会場	第 7 会場（3408 教室）
	R23. 原子力と地質科学
	座長：1-4 梅田浩司，5-7 高橋正樹，8-10 吉田英一
8：45	8：45 R23-O-1 花崗岩の深部地下環境における小断層およびその周辺の変質過程と水理的特性の変遷。 松本孟紘 9：00 R23-O-2 上載地層法に代わる破砕帯活動性評価手法。 島田耕史・末岡茂・石丸恒存 9：15 R23-O-3 鉱物脈法による断層活動性評価について。 石渡 明 9：30 R23-O-4 伊予灘一別府湾地域の中央構造線の位置と第四紀テクトニクス，および伊方原発周辺の地震ポテンシャル。 早坂康隆・小松正幸・伊予灘MTL調査研究会 9：45 R23-O-5 付加体中の割れ目（水みち）の長期的挙動と構造の検討。 吉田英一・大野卓也 10：00 R23-O-6 わが国の先新第三紀付加体堆積岩類を対象とした地質環境モデルの構築－NUMOセーフティケースにおける候補母岩のモデル化。 太田久仁雄・國丸貴紀・三枝博光・山田彩織・戸田亜希子・戸谷成寿・田中達也・橋本秀爾 10：15 R23-O-7（招待）★ 関東平野・濃尾平野周辺域における第四紀後期の海水準・地殻変動と侵食・堆積作用による地形発達史。 須貝俊彦 10：45 R23-O-8 地質学的現象の将来予測について：地層処分安全評価の観点から。 梅田浩司 11：00 R23-O-9（招待）★ 沿岸域の地下水環境とその長期安定性。 丸井敦尚 11：30 R23-O-10 日本列島付属島嶼の地質環境長期安定性評価。 高橋正樹

第 8 会場（3403 教室）
T3. グリーンタフ・ルネサンス
座長：1-4 細井 淳，5-9 天野一男
8：45 T3-O-1 グリーンタフ・ルネサンス：これまで，これから。 天野一男 9：00 T3-O-2（招待） 岩相解析に基づいた南部フォッサマグナ丹沢山地における古海洋性島弧の復元。 松原典孝 9：30 T3-O-3（招待） アパタイト微量元素組成に基づく第四紀～中新世の火砕流堆積物およびテフラの高精度対比。 高嶋礼詩・桑原 里・西 弘嗣・星 博幸・新正裕尚・和田穰隆・竹村恵二 10：00 T3-O-4 アパタイトの化学組成に基づく白亜系蝦夷層群の凝灰岩標準層序。 桑原 里・高嶋礼詩・西 弘嗣・折橋裕二 10：15 T3-O-5 小木玄武岩中のピクライト質ドレライト中のカンラン石組成の逆累帯と可能な解釈。 藤林紀枝・高岡美織・佐々木結人 10：30 T3-O-6 堆積相解析に基づいた兵庫県北部但馬御火浦に分布する中新世火山砕屑岩類の産状と形成過程。 郡山鈴夏・松原典孝・井口博夫 10：45※講演取消 T3-O-7 棚倉断層沿いに発達するstrike-slip basinを埋積する新第三系の古地磁気学的研究。 澤畑優理恵・細井 淳・岡田 誠・天野一男 11：00 T3-O-8 棚倉断層沿いの中新世アイスランドイト質デイサイト海底火山の復元とテクトニクス。 細井 淳・橋本純・天野一男・檀原徹・岩野英樹・平田岳史 11：15 T3-O-9 日本海プリアパート拡大の東縁マスター断層としての日本海溝。 眞島英壽

■ MEMO ■

※講演番号は，シンポジウム (S)，トピックセッション (T)，レギュラーセッション (R) のそれぞれに，ポスター (P) / 口頭 (O) の記号と各セッション内での通し番号を付与しています。
 ※講演要旨とプログラムとで発表題目や著者氏名が異なっている場合，講演要旨を正しいものとします。
 ※太字氏名：代表発表者。 ★印：ハイライト（本誌 p. (12) を参照）。 （招待）：招待講演。（エントリー）：優秀ポスター賞エントリー講演

■ 9 月 12 日（月）午後

会場

■ MEMO ■

14 : 30

第 2 会場（3307 教室）

R12. 岩石・鉱物の変形と反応

座長： 10-15 大坪 誠

14 : 30 R12-O-10（招待）★
室内実験結果を用いた地震サイクルシミュレーション：日本海
溝沈み込み帯とJFASTコア試料を例として、野田博之・澤井み
ち代・芝崎文一郎

15 : 00 R12-O-11
プレート境界断層における砂岩の小変位脆性破壊、北村有迅

15 : 15 R12-O-12
シュードタキライトにおける炭質物のラマンスペクトル、伊東
慶祐・田畑皓輝・氏家恒太郎・鍵 裕之

15 : 30 R12-O-13
断層運動に伴うカタクレサイト帯の構造発達過程：中央構造
線の例、荒井 駿・竹下 徹・岡本あゆみ

15 : 45 R12-O-14
三重県西部中央構造線の発展史と大規模断層帯の弱化：試験的
モデル、竹下 徹・荒井 駿・Dong Bui Van

16 : 00 R12-O-15
露頭観察に基づく中央構造線断層の摩擦特性、高橋美紀・稲生
千咲・亀田 純・重松紀生

■ MEMO ■

※講演番号は、シンポジウム (S)、トピックセッション (T)、レギュラーセッション (R) のそれぞれに、ポスター (P) / 口頭 (O) の記号と各セッション内での通し番号を付与しています。
※講演要旨とプログラムとで発表題目や著者氏名が異なっている場合、講演要旨を正しいものとします。
※太字氏名：代表発表者、★印：ハイライト（本誌 p. (12) を参照）、（招待）：招待講演、（エントリー）：優秀ポスター賞エントリー講演

日本地質学会第 123 年学術大会（2016 東京・桜上水大会）講演プログラム（口頭）

■ 9 月 12 日（月）午後

会場	第 4 会場（3303 教室）		第 5 会場（3405 教室）		第 6 会場（3407 教室）	
	R22. 地球史		T2. 日本海沿岸での津波堆積物研究の展開		T4. 表層型メタンハイドレートの地質と資源ポテンシャル	
	座長：4-7 白井洋一, 8-12 黒田潤一郎		座長：1-5 卜部厚志, 6-10 川上源太郎		座長：1-2 松本 良, 3-7 戸丸 仁, 8-12 棚橋 学	
14：30	14：30	R22-O-4	14：30	T2-O-1（招待）	14：30	T4-O-1（招待）
	白亜紀の温暖期から寒冷期への移行期に認められた深海循環の逆転。 大河原秀祐 ・海保邦夫・池原実		日本海の地質構造と震源断層。 佐藤比呂志		熊野海盆第五泥火山堆積物中のメタンハイドレートの起源。 井尻 暁 ・稲垣史生	
	14：45	R22-O-5	15：00	T2-O-2（招待）	15：00	T4-O-2（招待）
	北西および北東太平洋における白亜紀海洋無酸素事変発生時における大規模火山活動と古環境変動。 西 弘嗣 ・高嶋礼詩・山中寿朗		日本海東縁の古津波堆積物：時・空間分布概観。 平川一臣		台湾のガスハイドレート・プログラム；最近の発見。 林 暁武	
	15：00	R22-O-6（招待）★	15：30	T2-O-3	15：30	T4-O-3
	ボルフィリンを用いた古環境復元：原理と応用。 大河内直彦		北海道日本海沿岸の津波堆積物と津波履歴。 川上源太郎 ・仁科健二・加瀬善洋・林 圭一・廣瀬 亘		高分解能 3 次元地震探査から明らかとなった上越沖ガスチムニーの詳細構造。 大川史郎 ・松本 良	
	15：30	R22-O-7	15：45	T2-O-4	15：45	T4-O-4
	中国三峡地域エディアカラ系における銅元素化学層序：海洋銅濃度の復元と後生動物進化の解明に向けて。 耿 野川 ・大野剛・坂田周平・小宮 剛		秋田県沿岸部にみられるイベント堆積物とその形成年代。 鎌滝孝信 ・松富英夫・阿部恒平・黒澤英樹		AUV音響探査で見る日本海表層型メタンハイドレート分布域の特徴。 森田澄人 ・棚橋 学・杉本慎吾・坂本順哉	
	15：45	R22-O-8★	16：00	T2-O-5	16：00	T4-O-5
	有機地球化学分析からみた南中国揚子プラットフォームにおける新原生代マリノアン氷期周辺の海洋生物変動。 静谷あてな ・海保邦夫・大庭雅寛・トン ジンナン		北潟湖堆積物にみる過去の災害・環境変動の痕跡。衣川公太郎・ 長谷部徳子 ・福士圭介・Piziki Patricia Zazo・北川淳子・Nahm Wook Hyun・香月興太		上越沖LWD（掘削同時検層）の2種類の孔隙率とメタンガスハイドレート。 棚橋 学 ・松本 良・京野 修	
	16：00	R22-O-9	16：15	T2-O-6	16：15	T4-O-6
	東エジプトEl Dabbah 地域における7億年前の縞状鉄鉱層の特徴。 鈴木大志 ・清川昌一・池原 実・佐野貴司・Dawoud Maher・Abouelhassan Mohamed		若狭湾沿岸で見出された津波堆積物。 山本博文 ・本夢翔・佐々木直広・卜部厚志		最上トラフのガスチムニー構造掘削コアに見られるメタンハイドレート濃集層の周期性。 角和善隆 ・蛭田明宏・棚橋 学・松本 良	
	16：15	R22-O-10	16：30	T2-O-7	16：30	T4-O-7
	ガボン・フランスヴィル盆地における前期原生代有機炭素・窒素同位体層序：大型化石出現後の嫌気的環境。 佐藤友彦 ・澤木佑介・丸山茂徳・斎藤誠史・松井洋平		静穏な海岸背後にあるストーム性段丘（storm swash terrace）上の礫の分布 ―ストームと津波による分布特性の相違―。 仁科健二 ・川上源太郎・加瀬善洋・廣瀬 亘・卜部厚志・高清水康博・平川一臣		日本海、表層型メタンハイドレート分布域に見られるメタン由来炭酸塩の同位体組成と生成年代。 松本 良 ・蛭田明宏・柿崎喜宏・張 乃忠・張 育維・黄 君援・沈 川洲	
	16：30	R22-O-11★	16：45	T2-O-8	16：45	T4-O-8
	南アフリカ・パーバートン緑色岩帯にみられる初期太古代の海底熱水活動による珪化変質作用。 梅田早織 ・石川 晃・小宮 剛		津波堆積物の堆積過程における有機質微化石の比重分別。 林 圭一 ・加瀬善洋・卜部厚志・高清水康博・川上源太郎・仁科健二		上越沖、海鷹海脚中西部のメタンシーブサイトにおけるメタンの炭素同位体比とガス組成。 柿崎喜宏 ・シュナイダー グレン・松本 良	
	16：45	R22-O-12	17：00	T2-O-9	17：00	T4-O-9
	カナダ・ラブラドル、サグレック岩体の長期にわたる断続的な花崗岩形成：初期太古代における花崗岩地殻の累帯成長と大陸地殻のリサイクリング。 小宮 剛		無機化学分析による津波堆積物の認定：予察的検討。 加瀬善洋 ・川上源太郎・仁科健二・林圭一・卜部厚志・高清水康博		日本海の表層型メタンハイドレートの分布と堆積物間隙水の濃度異常。 戸丸 仁 ・本多祐樹・Snyder Glen・松本 良・PS15乗船研究者	
			17：15	T2-O-10	17：15	T4-O-10
			新潟～富山地域の海岸低地に記録されたイベント堆積物。 卜部厚志		TOC濃度変動に基づく日本海堆積物の「標準層序」とガスハイドレート胚胎層との対比。 公文富士夫 ・滝沢侑子・松本 良・卜部 輔	
					17：30	T4-O-11
					ROVによる日本海表層型メタンハイドレート胚胎域の海底調査。 石田直人 ・沼波秀樹・松本 良	
					17：45	T4-O-12
					日本海東縁表層ガスハイドレート賦存域におけるガスチムニー構造の海底環境への影響。 沼波秀樹 ・巖 麗美・戸丸 仁・佐藤幹夫・石田直人・松本 良	

※講演番号は、シンポジウム (S)、トピックセッション (T)、レギュラーセッション (R) のそれぞれに、ポスター (P) / 口頭 (O) の記号と各セッション内での通し番号を付与しています。

※講演要旨とプログラムとで発表題目や著者氏名が異なっている場合、講演要旨を正しいものとします。

※太字氏名：代表発表者。 ★印：ハイライト（本誌 p. (12) を参照）。 （招待）：招待講演。（エントリー）：優秀ポスター賞エントリー講演